

韓米首脳会談の結果に対する糾弾論評

1. 朴槿恵大統領の就任とオバマ大統領の第2期政権が発足してから初めて開かれた韓米首脳会談の結果が「韓米同盟60周年記念宣言」などとして発表された。

2. 今回の首脳会談は、対決局面にひた走っていた朝鮮半島情勢を対話局面に転換する確実な転機を準備し、不平等な韓米関係を互惠平等な韓米関係に転換する扉を開く協議にしなければならなかった。しかし、今回の首脳会談の結果は失望このうえないものだ。

3. まず、朝鮮半島情勢と関連した韓米首脳の合意と諸発言は、前向きであるどころか、これまでの発言を繰り返したり、朝鮮民主主義人民共和国を強く圧迫する表現に満ち満ちていた。すなわち北に朝鮮半島情勢悪化の責任を一方的に押し付け、北の挑発中断と変化を促すことが主な論旨になっているのだ。特に、朴槿恵大統領は「(北朝鮮の)国際規範に逆らう行動に制裁を加え、代価を払わなければならない」、「北朝鮮が変わらざるをえないように戦略的な選択をするのが最も効果的」と主張することにより、北への制裁と圧迫を強化するという意図を露骨に現わした。これは、「韓米両国は北朝鮮と外交的に対話する準備ができていて、信頼を構築する準備ができています」と述べたオバマ大統領の発言とも対比されるだろう。

私たちは、朝鮮半島の平和協定と非核化交渉の転機を準備することを要求した情勢の要求と民族の願望を捨て去った韓米首脳会談の結果を強く糾弾する。我々は、今回の韓米首脳会談の重要なポイントである朝鮮半島平和問題についてせいぜいこの程度の合意を出してくるのであれば、この時期に首脳会談を開いた理由は一体何なのか疑わしいほどだ。

私たちは、韓米首脳が無責任で無能な協議によって対決や対立局面が持続することが、最終的には自分たちに負担として作用することになることを肝に銘じて、危機の情勢を対話局面に転換させるための迅速かつ能動的な行動をとることを強く要求する。

4. 韓米首脳は「北朝鮮の挑発から両国の国民を保護するために、北朝鮮のミサイルの脅威に対する共同の対応努力とともに、情報・監視・偵察システム連動を含めた包括的かつ相互運用可能な連合防衛力を持続強化していく」と合意した。オバマ大統領は首脳会談直後の共同記者会見で、「我々は、安保同盟の現代化を継続的に推進することで合意した」として「防御力と技術、ミサイル防衛に投資しており、これは両国軍の共同運用を可能にしている」と述べた。これは、韓米両国の最高位の当局者は、これまで出てきたMDと関連したすべての公式の合意よりも、最も具体的で直接的に韓米間で統合されたミサイル防衛(MD)システムを構築すると宣言したものだといえることができる。

「韓国型MD」の構築を推進してきた韓国政府は今までのところ、公式には米国MDへの参加を否認してきた。しかし、今回の韓米首脳間の合意によって、今、韓米両国が米国MDへの参加を公の場で推進する可能性が非常に高くなったという点で、我々はこれに対して深刻な懸念を持つ。実際に米国MDへの参加の試金石とされてきた米国MD迎撃システムであるSM-3導入推進が加速する可能性が高い。

韓国の米国MDへの参加は、私たち国民の血税で、日本本土や沖縄、グアムの米軍基地に飛んで行く北と中国のミサイルを探知したり、迎撃したりする兵器体系を構築することに集中されるだろうという点で、私たちの安全保障的利害関係と距離が遠い。また、MDシステム運用の過程で、対米軍事的依存を深め、底の抜けた甕に水を注ぐ式の莫大な国民の血税の浪費をもたらす。何よりも米国主導で韓国と日本が参加する北東アジアのMDシステムが構築されれば、その対象である北と中国などの強い反発によって、北東アジアの軍事的緊張と葛藤、無限軍備競争が触発され北東アジアの平和が深刻な脅威を受けるであろう。

ここに私たちは、米国のMD参加本格化を宣言した韓米首脳会談の結果を強く糾弾しながら、私たちに百害あって一利ないMDへの参加を中止することを強く要求する。

2013年5月8日

平和と統一を開く人々

(常任代表：カン・ジョング、ムン・ギュヒョン、ペ・ジョンヨル)